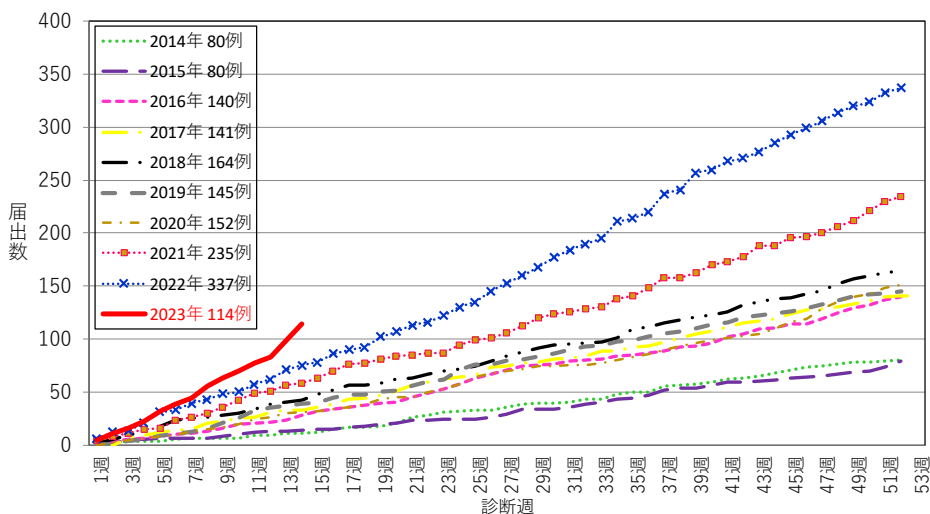


【今週の注目疾患】

《梅毒》

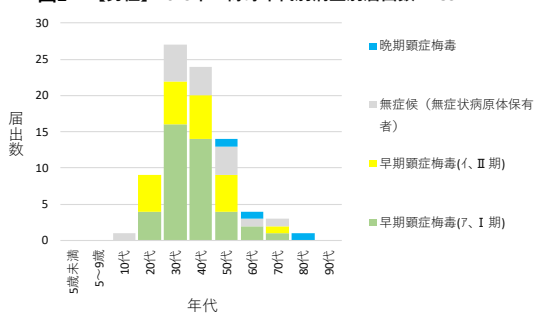
2023年第14週に梅毒の届出が16例あり、2023年の累計報告数は114例となった。梅毒は2021年、2022年と2年連続で年間累計報告数が1999年の現行感染症サーベイランス開始以降過去最多を更新した。第14週における累計報告数114例は、2022年第14週時点の累計報告数75例の約1.5倍であり、増加傾向が継続している（図1）。

図1 2014年～2023年14週千葉県の梅毒年別累積届出数（N=1588）

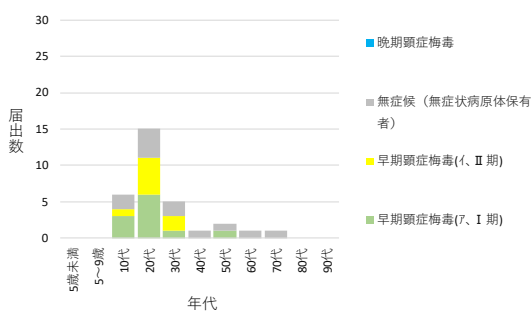


2023年第1週から第14週に届出のあった114例のうち、性別では、男性83例（73%）、女性31例（27%）であった。年代別では、男性は30代が最も多く27例（27/83,33%）、次いで40代が24例（24/83,29%）、50代が14例（14/83,17%）であった。女性は20代が最も多く15例（15/31,48%）、次いで10代が6例（6/31,19%）、30代が5例（5/31,16%）であった。病型別では、男性では早期顕症梅毒第Ⅰ期（以下、第Ⅰ期）が最も多く41例（41/83,49%）、次いで早期顕症梅毒第Ⅱ期（以下、第Ⅱ期）が23例（23/83,28%）であった。一方、女性では無症状病原体保有者が最も多く12例（12/31,39%）、次いで第Ⅰ期が11例（11/31,35%）であった。2023年は現時点で、先天梅毒の症例は報告されていない（図2）。

図2 【男性】2023年の梅毒年代別病型別届出数 N=83



【女性】2023年の梅毒年代別病型別届出数 N=31



梅毒の感染経路は菌を排出している感染者との性器や肛門、口腔などの粘膜の接触を伴う性行為や疑似性行為によるものである。予防としては、感染者との性行為や疑似性行為を避けることが基本となる。コンドームが覆わない部分の皮膚などでも感染がおこる可能性があるため、コンドームの使用は完全ではないものの予防効果があることが示唆されている^{1,2)}。早期発見・早期治療が重要であり、再感染を予防するため、パートナーもともに検査を受けることが推奨される。県では保健所において無料・匿名の検査を実施しているとともに、（公財）ちば県民保健予防財団への委託による検査を実施している。感染が気になる方や不安なことがある場合には、活用されたい。なお、最新の検査実施状況については、県ホームページ等でご確認いただきたい³⁾。

■参考

1)国立感染症研究所：梅毒とは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/465-syphilis-info.html>

2)厚生労働省：梅毒に関する Q&A

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/syphilis_qa.html

3)千葉県：梅毒が増えています

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/baidoku.html>